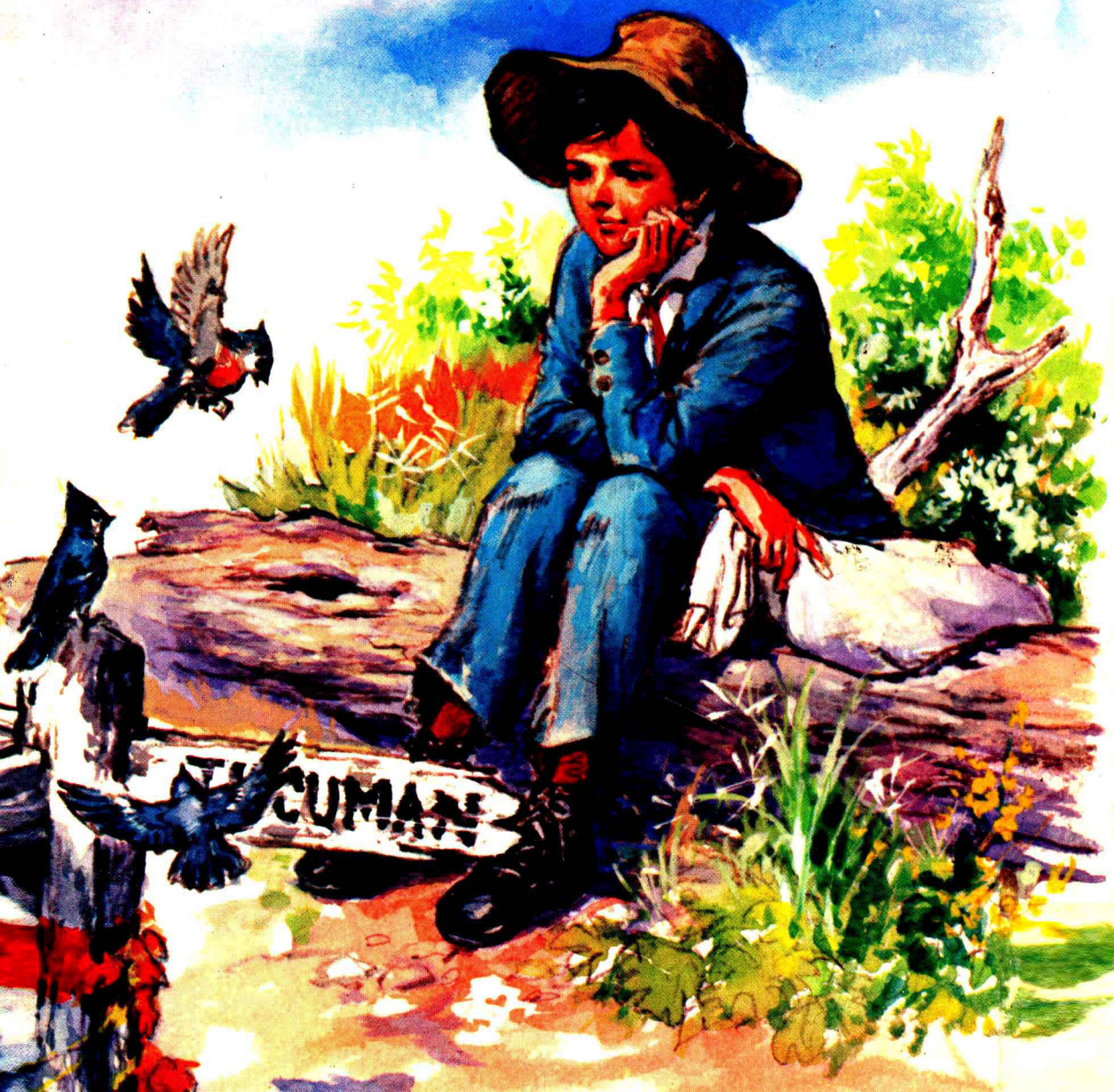


母をたずねて

じょうなつこぶん たけべもといちろうえ



■ 著者紹介



作家 ■ 城 夏子 (じょう なつこ)

1902年和歌山県に生まれる。和歌山高女卒業。作品には〈母の悲曲〉〈母燈臺〉〈母星子星〉等、母子の愛情を描いたものが多い。1970年ヨーロッパの旅を楽しんできた。日本女流文学会々員として活躍。

現住所 = 千葉県流山市東深井948 協栄年金ホーム



画家 ■ 武部本一郎 (たけべ もといちろう)

1914年大阪に生まれる。京都時代は行動美術会に所属、京都市展市長賞等をうけた。1957年上京し、以来児童もののさし絵を専門とするようになる。作品には〈かわいそうなぞう〉〈おやゆびひめ〉〈ふしぎなさけのたび〉等多数ある。最近はや欲的に乗り物の絵と取りくんでいる。

現住所 = 東京都三鷹市新川 5 丁目6-9-103

おはなし絵文庫 25 母をたずねて

城 夏子文 武部本一郎絵

昭和46年 9月30日 初版 ©

昭和51年 3月30日 4版

印刷 ● 名古美術印刷株式会社

発行所 ● 東京都新宿区須賀町5 ポプラ社

N.D.C.973

8797-014025-7764

落丁・乱丁本はいつでもおとりかえいたします

をたずねて

じょう なつこぶん たけべもといちろう え



moto. T

おはなし絵文庫——25

おかあさん 元気^{げんき}でねっ

イタ^いリ^りア^あに、ジ^じエ^えノ^のバ^ばという

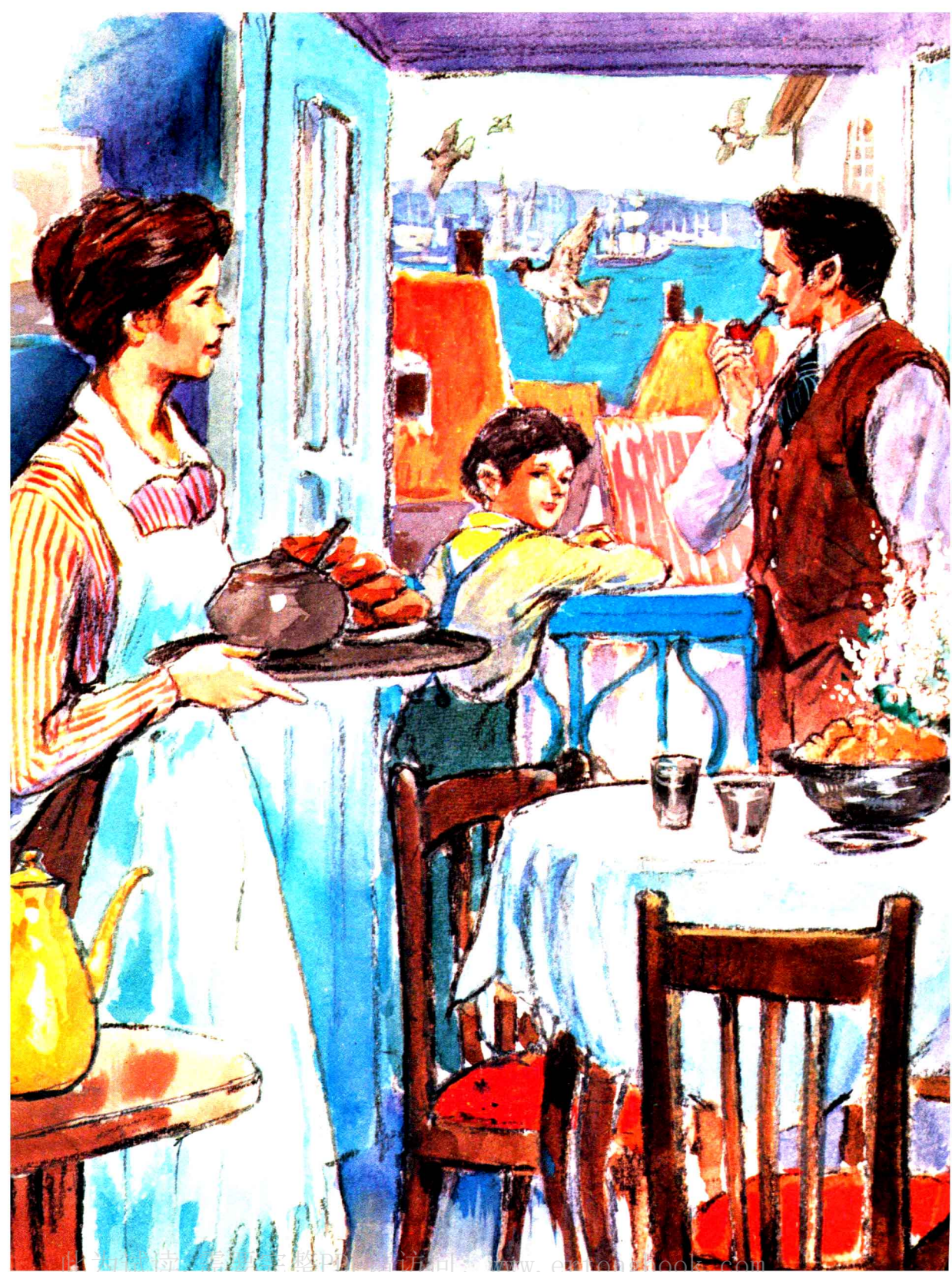
町^{まち}が あります。

マル^まコ^るは、おとうさん

おかあさん にいさんと、四^よ人^{にん}

たのしく くらしていました。





マルコが 十一じゅういちのとき、おとうさんの おしごとが

うまく いかなく なりました。おかあさんが、ふたりの
むすこの ために、どうしても じぶんが

はたらかなくてはと けっしんしました。

そのころ、南アメリみなみあめりかカの アルゼンチンアルゼンチんという 国くにへ、

ジエノバじえのばの 女おんなの人たちは、よく はたらきに

でかけていました。マルコまるこの おかあさんも、

ブエノスアイレスぶえのすあいれすという 町まちの しりあいの 家いえを

たよって、おてつだいさんになることに きまりました。

おとうさんも、おかあさんの つよい けっしんを

とめることは できませんでした。



moto.

野^のげしの 赤^{あか}い 花^{はな}が、
いちめん^に 風^{かぜ}に ゆれる
六^{ろく}月^{がつ}の ある日^ひ、
おかあさんを のせた
ふねは、みなとを
でていくことになりました。

「おかあさーん、びょうきなんか　しないでえーっ。」
「マル^{まる}コも　げんきで　いるんですよおーっ。」

おとうさんと　にいさんと　マル^{まる}コとは、

いつまでも　みなとの　ふなつきばに

たって、手^てを　ふりました。

おかあさんを　のせた

ふねは、マル^{まる}コの

なみだの　なかで

ばやけていきました。





ぼくが　いく

おかあさんは、ブエノスアイレスの　めずらしい

おはなしを、手紙てがみで　しらせてきました。

お金かねも　まい月つき　おくつてきました。

一年いちねん　たったころ、すこし　からだを　こわしたけれど

しんぱいしないでと　いう　たよりが　あり、それから

手紙てがみは　こなくなりました。うちから　なんべん

手紙てがみを　だしても、へんじは　きません。

おとうさんは、きゆうに　しんぱいに　なりました。

かといって、おとうさんが　アルゼンチンあるげんちんへ　でかけて

いけば、こども　ふたりは　どうなるでしょう。

mo. T



ある日、マルコは いきなり いいました。

「ぼく、おかあさんを むかえに いく。」

「おまえ、そんな……」

おとうさんは、びっくりしました。でも、マルコは

おかあさんの ことを おもうと、じっとして いられません。

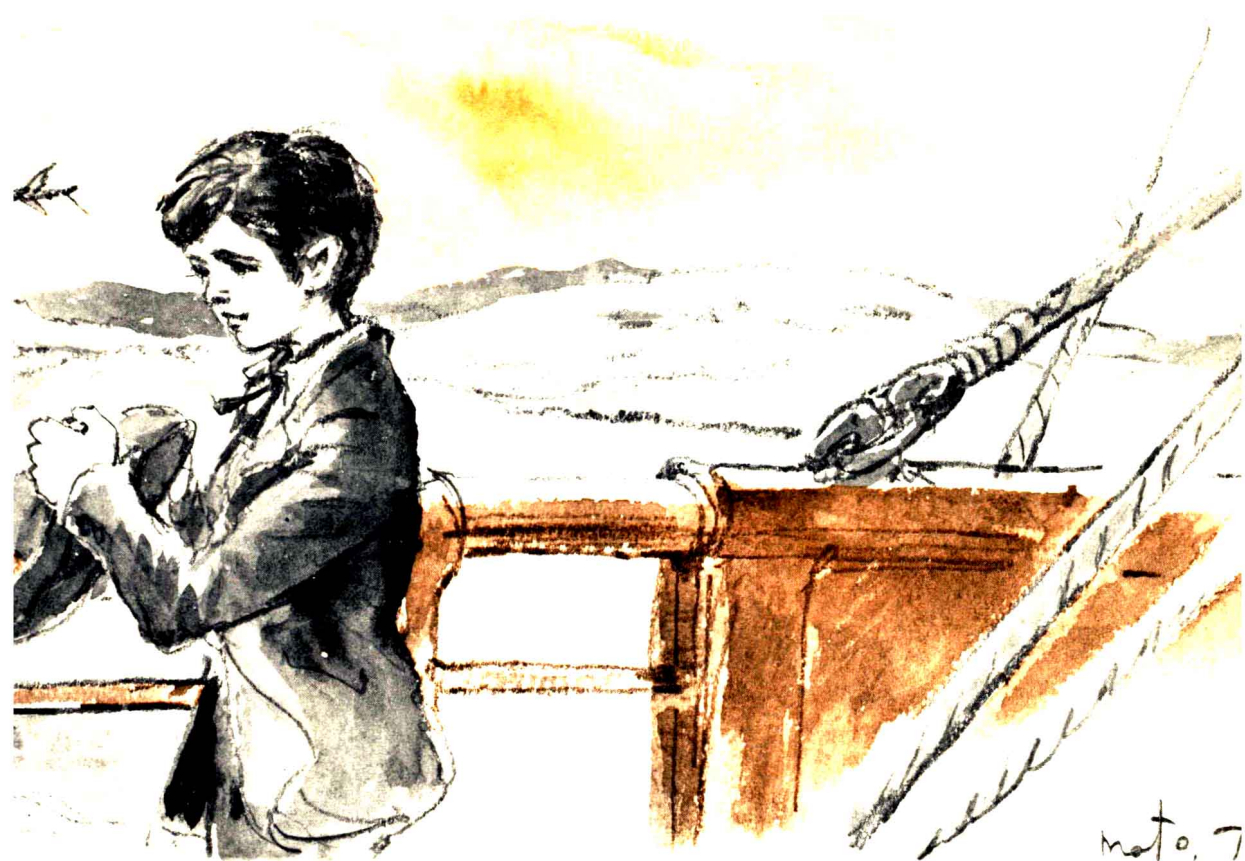
おとうさんも、マルコの ゆうきに まけました。

そして、十三さいの マルコは たった ひとり、

とおい しらない 国へ いく ふねに のったのです。







あつ、おかあさん

きのうと おなじに、

きょうも マルコは 海の

上に います。たぶん

あしたも。みたことも

ない、おじさんばかりの

なかで。

うつくしい すがたを

した とびうおたちだけが、

マルコを なぐさめました。

日よう日が 三ども



きたころ、ひとりの
おじいさんが マルコに
はなしかけました。

「ひとりたびかね。

えらいね。もう

すこしの しんぼうだ。

あと 一しゅうかんで、

ふねは みなとに

つくよ。」

「おじいさんも

ブエノスアイレスへ

いくの。」

「いや、わしはそれよりもっととおい、
ロザリオ^{ろざりお}までいく。そこに、むすこが
いるのでね。」
やっと、ふねはみなとに つきました。

「では、気を つけてな。」

はとばで、おじいさんと わかれました。

にぎやかな 町^{まち}へ でした。しばらく あるいて

いくと、花^{はな}やが ありました。

マルコ^{まるこ}は 花^{はな}やの おばさんに、メ^めキ^きー^ーネ^ねス^すさんの

ばんちを みせました。

「この道^{みち}を、どこまでも まっすぐに いきなさい。」

マルコ^{まるこ}は、まるい ほおを まっかにして

あるきつづけました。

